

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	膝前十字靱帯再建術後再損傷の実態調査及び関連因子の検討
所属科*	中央リハビリテーション部
研究責任者*	北口 拓也
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 4 月 1 日 ~ 終了 西暦 2027 年 3 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	膝前十字靱帯再建術後 (1000 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2000 年 4 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 7 月 15 日
研究概要*	膝前十字靱帯 (ACL) 再建術後患者は、スポーツ復帰やリハビリに長期間を要するにもかかわらず、復帰後に反対側を含む再損傷を起こす症例が一定数存在する。そのため、再損傷に関する報告は多いが、多くは発生率に関する調査にとどまり、再損傷に関連する機能的・環境的因子を検討した報告は少ない。再損傷を起こしやすい症例の患者特性や機能面の一部が明らかになれば、再損傷予防を目的としたリハビリテーションプロトコルの作成に有益な情報となると考えられる。 そこで本研究では、ACL 再建術後の再損傷の実態を調査し、関連因子を検討することを目的とした。 対象は、2005 年以降に当院にてスポーツ復帰を目的に初回 ACL 再建術を行った症例であり、術後の再損傷の有無により、同側再損傷群、反対側損傷群、非損傷群の 3 群に分類する。調査項目は、年齢、性別等の基本属性、採取腱の種類、再損傷率、再損傷時期、受傷機転、スポーツに関する情報に加え、通常診療にて実施した膝機能評価 (膝筋力、片脚跳躍能力、問診票など) とし、カルテから情報を収集する。各評価項目について 3 群間で比較を行い、同側再損傷および反対側損傷に関連する因子を検討する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	研究実施に関わるデータ等を取り扱う際は、被験者の個人情報とは無関係の番号を付して、連結可能匿名化した上で管理し、被験者の秘密保護を十分に配慮する (対応表及び記憶媒体は施設内の施錠された環境で厳重に保管する)。また、研究の結果を公表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。

別紙第 2 号様式

	診療情報の利用を希望されない場合は、下記にお申し出ください。お申し出による不利益は一切ございません。ただし、すでに解析や公表済みの場合はデータ削除ができないことがありますのでご了承ください。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 中央リハビリテーション部 主任理学療法士 北口 拓也 〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町 1179-3 電話：072-252-3561 Fax：072-255-3349)

* 記入必須項目